TOSHIBA 東芝ワイヤレスマイクロホン取扱説明書

対象機種	AWM-810（800MHz帯・技術基準適合証明品）

このたびは、東芝ワイヤレスマイクロホンをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
お求めのワイヤレスマイクロホンを正しく使っていただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
なお、お読みになったあとは、必ず保存してください。

安全上のご注意

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図のなかに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な注意内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- お読みになった後は本機のそばなど、いつも手元に置いてご使用ください。
- この取扱説明書および製品への表示では、製品を正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告

〔据付、設置、接続、移動にあたっての注意〕

■この機器は改造しないでください。
火災、感電の原因となります。

〔使うときの注意〕

■この機器に水が入ったり、濡らさないようにご注意ください。
火災、感電の原因となります。

工事店様へ 工事が終了しましたら、この説明書は必ずお客様へお渡しください。
お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

＜生産完了 2006年02月08日＞
AWM-810(1/11)

⚠ 警告

〔使うときの注意〕

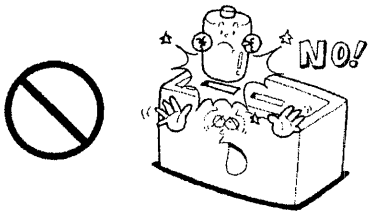
■航空機内では電源を切ってください。
運航の安全に支障をきたす恐れがあります。

■医用電気機器に近づけないでください。（手術室、集中治療室、ＣＣＵ*等には持ち込まないでください。）
この機器からの電波が医用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。
*ＣＣＵとは、冠状動脈疾患監視病室の略称です。

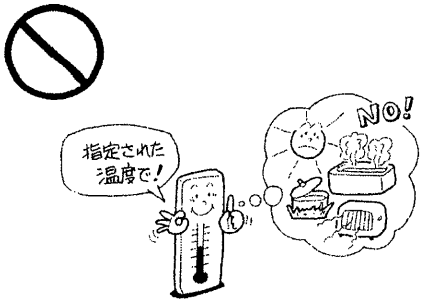
■自動ドア、火災報知器等の自動制御機器の近くで使用しないでください。
この機器からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

■この機器に使用している電池を取り出した場合は、小さなお子さまが電池を誤って飲むことがないようにしてください。電池は幼児の手の届かないところへ置いてください。万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師とご相談してください。

■乾電池は充電しないでください。
電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。



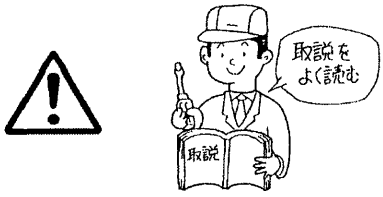
■高温や湿度、ほこりの多い次のような場所には放置しないでください。火災の原因となることがあります。
- サウナや風呂場など
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるような場所
- 直射日光のあたる場所
- 夏の窓を閉めきった自動車の中
- 電気、ガス、石油ストーブなどの暖房器具の真上やその付近
- 有害ガスやいろいろなほこりが特に多い所



⚠ 注意

〔使うときの注意〕

■機器を使用する場合は、取扱説明書をよく読み、説明に従って使用してください。

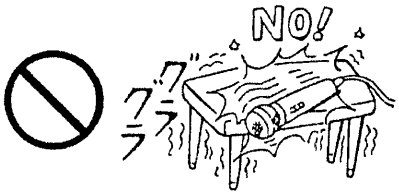


＜生産完了 2006年02月08日＞
AWM-810 (2 / 11)

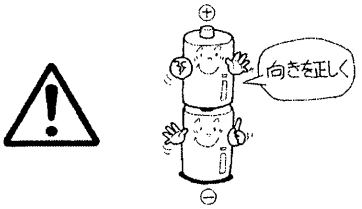
⚠ 注意

〔使うときの注意〕

■ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



■電池を機器内に挿入する場合は、極性表示(プラス＋、マイナスーの向き)に注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

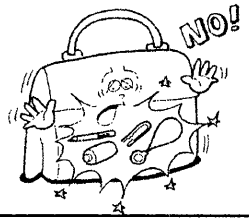


■指定以外の電池は使用しないでください。また、長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。乾電池の破裂、液漏れにより火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

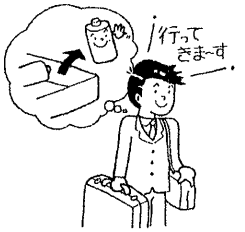
■この機器は改造し使用することは法により禁じられています。また、分解したり、内部の部品をいじったりしないでください。

〔保管にあたっての注意〕

■電池は金属製のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。電池のプラス端子とマイナス端子の間がショートし、電池の破裂、液漏れにより火災、けがの原因となることがあります。



■長期間使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
電池から液が漏れて火災、けが、周囲汚損の原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
また、万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。



〔廃却するときの注意〕

■電池は加熱したり、分解したり、火や水の中にいれないでください。
電池の破裂、液もれにより火災、けがの原因となることがあります。

■電池など中に有害物資を含んだ物は一般のゴミと一緒に処置は出来ません。必ず専門の業者に依頼するなど十分に注意して処理してください。

＜生産完了 2006年02月08日＞
AWM-810 (3 / 11)

使用上のご注意

■ 技術基準適合証明品ですので、取り扱いに注意してください。
- 本マイクは、電波法で規定される技術基準適合証明品です。マイク毎にその証明番号（証明ラベル）が貼ってあります。はがしたり、傷つけたりしないでください。
- 本マイクを分解したり、内部の部品に触れたりしないでください。改造することは法律で禁じられています。

■ 強い電波を発生する機器などに近づけないでください。
- マイクを携帯電話など強い電波を発生する機器に近づけるとノイズを発生する場合があります。
- また、ワイヤレスチューナ(受信機)およびワイヤレスアンテナもディジタル機器、高周波を発生する機器などに近づけると混信、ノイズ発生などの誤動作を発生する場合があります。
- その場合は、電波を発生する機器より離して（5m以上）使用してください。

■ ハウリングに注意してください。
- 狭い部屋または、スピーカの近くでマイクを使用すると、ハウリング(『ピー』という音)を発生する場合があります。
- その場合は、スピーカの音量を下げるか、マイクとスピーカの位置・方向を変えてハウリングが発生しないよう処置してください。

■ マイクをワイヤレスアンテナに近づけすぎないでください。
- マイクをワイヤレスアンテナに近づけすぎますと（2m以内)、他チャンネルへの飛び込み、混信などが発生する場合がありますので注意してください。
- マイクは、ワイヤレスアンテナから2m～10m ぐらいの距離で使用することをおすすめします。

■ マイクどうしを近づけすぎないでください。
- 2本以上のマイクを近づけすぎますと(50cm以内)、他チャンネルへの飛び込み、混信などが発生する場合がありますので注意してください。

■ マイクを金属物に接触させないでください。
- マイク部のネット部分に金属物が接触した状態で使用しますと、ノイズが発生する場合がありますので注意してください。

■ マイクの送信周波数とワイヤレスチューナの受信周波数は、同じ周波数に設定してください。

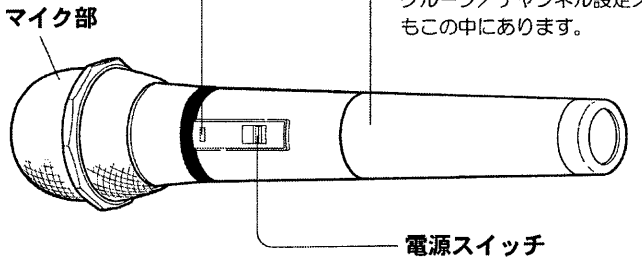
■ 使用後は、電源スイッチを切ってください。
- 使用後は、電源スイッチを必ずきってください。また、長時間（2週間以上）使用しない場合は、乾電池を取り出してください。

＜生産完了 2006年02月08日＞
AWM-810 (4 / 11)

各部のなまえと説明

電源表示灯(赤)
電源スイッチを入れますと点灯します。
・電源表示灯が遅い点滅または消灯する場合は、使用している乾電池が消耗しています。新品の乾電池に交換してください。
・電源表示灯が早く点滅する場合は、周波数設定が正しくできていないことを表しています。電源を切り再度周波数設定をしてください。

電池ケース
ふたをはずし、内部の極性表示に従って電池を入れてください。
また、送信周波数を設定するためのグループ/チャンネル設定スイッチもこの中にあります。



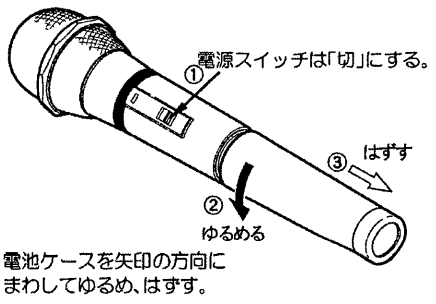
乾電池の入れ方

■本マイクは、出荷時、乾電池は入れてありません。次の乾電池の入れ方に従って付属の乾電池を入れてください。
また、乾電池が消耗した場合も、同様に交換してください。

ご注意
乾電池を入れるとき、交換するときは、必ず電源スイッチを「切」にしてください。

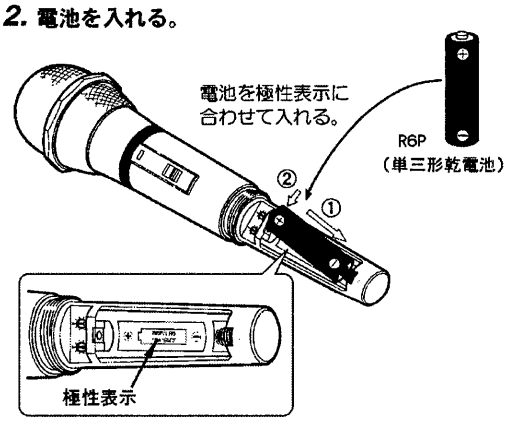
乾電池の入れ方

1. 電池ケースをはずす。

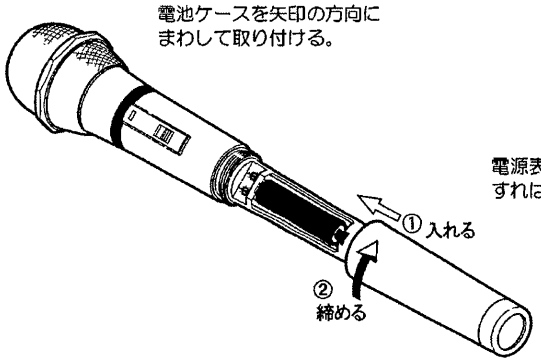


電池ケースを矢印の方向に
まわしてゆるめ、はずす。

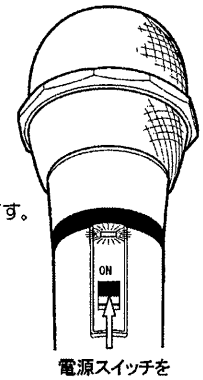
2. 電池を入れる。



3. 電池ケースを閉める。



4. 電源スイッチを入れ乾電池の確認をする。



＜生産完了 2006年02月08日＞
AWM-810(5/11)

周波数の設定について

- マイクと受信機（チューナーユニット）は、同じ周波数に設定してください。
- 同時に使用できるマイクは、グループを全て同じにし、チャンネルを変えてください。[同グループ、異チャンネル]（周波数一覧表を参照）

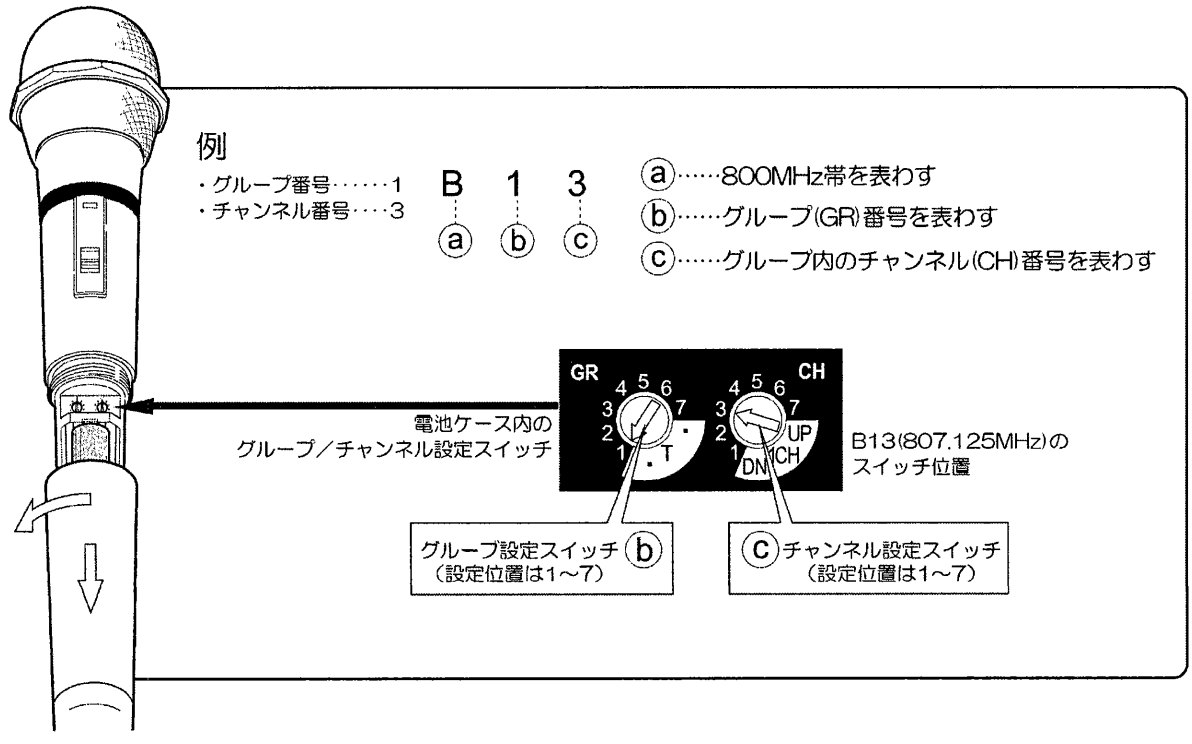
■ グループについて

- 同じ場所で複数のマイクを同時に使用するときは、１つのグループに統一して使用します。学校の教室のように複数の部屋で使用する場合は、各部屋ごとにグループを割り振ります。
  - ・グループ１～4……最大６波まで。
  - ・グループ５……５波まで。
  - ・グループ６……１波まで。
  - ・グループ７……７波まで。ただし、隣接した部屋で他のグループのマイクは使えません。
- 15周波数使用の組み合わせは、グループ1～6の中から選定された周波数で構成されています。設定方法については、9ページの「多チャンネル使用について」をご参照ください。

■周波数一覧表

受信周波数（0.125MHz 間隔、30 波）							
周波数	グループ(下２桁目)・チャンネル(下２桁目)						
(MHz)	1	2	3	4	5	6	7
806.125	B11						B71
806.250		B21					
806.375	B12						B72
806.500		B22					
806.625			B31				
806.750				B41			
806.875			B32				B73
807.000		B23					
807.125	B13						
807.250						B61	
807.375			B33				
807.500				B42			B74
807.625					B51		
807.750	B14						
807.875		B24					
808.000				B43			
808.125					B52		
808.250			B34				
808.375					B53		
808.500		B25					B75
808.625			B35				
808.750					B54		
808.875		B26					
809.000	B15						
809.125				B44			
809.250			B36				
809.375				B45			B76
809.500	B16						
809.625					B55		
809.750				B46			B77

■ チャンネル呼称ついて



＜生産完了 2006年02月08日＞
AWM-810 (6 / 11)

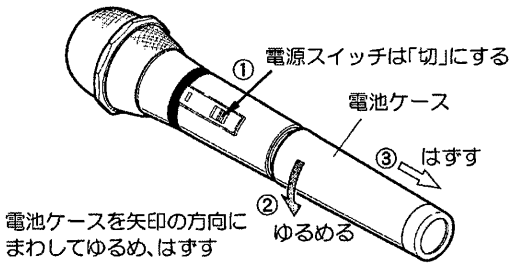
送信周波数の設定のしかた

■ 周波数の設定の手順

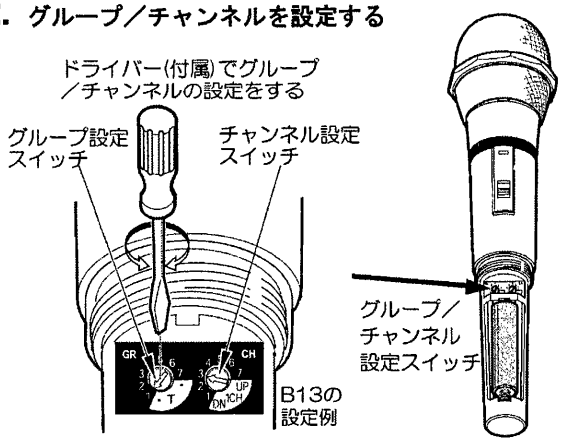
お願い
周波数を設定するときは、必ず電源スイッチを「切」にしてください。

1. 電池ケースをはずす

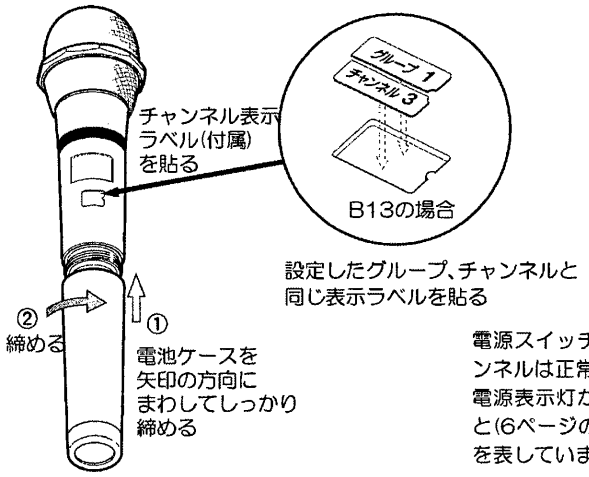
電池ケースをはずしますと内部にグループ／チャンネル設定スイッチがあります。
電源スイッチを必ず「切」にしてから、電池ケースをはずしてください。



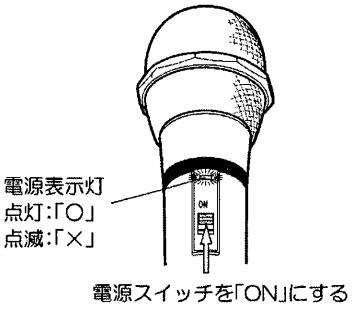
2. グループ／チャンネルを設定する



3. 電池ケースを閉める



4. 電源スイッチを入れ、設定を確認する

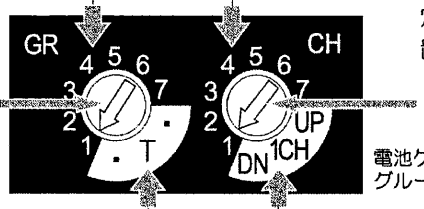


電源スイッチを入れ、電源表示灯が点灯すれば設定したグループ／チャンネルは正常です。
電源表示灯が早く点滅する場合は、周波数設定が正しくできていないこと(6ページの受信周波数表にないグループ、チャンネルに設定している)を表しています。電源スイッチを切り再度周波数設定をしてください。

■ グループ/チャンネルの設定のしかた

グループ設定番号「1～7」
グループ番号を1～7の範囲内で設定してください。その他の位置には設定しないでください。

グループ設定スイッチ



チャンネル設定番号「1～7」
チャンネル番号を1～7の範囲内で設定してください。「UP/1CH/DN」位置には設定しないでください。

チャンネル設定スイッチ

電池ケース内の
グループ／チャンネル設定スイッチ

周波数初期設定位置
「T」が周波数初期設定位置です。8ページの「セカンド(副)チャンネル設定について」および「受信不良および音質不良の場合(周波数の初期設定のしかた)をご覧ください。

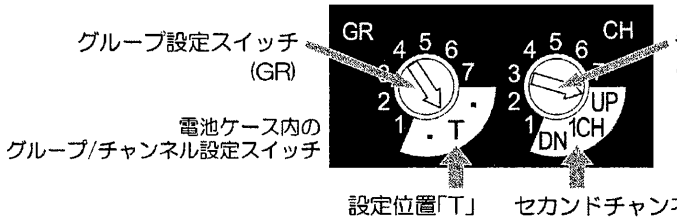
セカンドチャンネル設定位置「UP/1CH/DN」
初期設定は「1CH」です。本マイクをひとつの送信周波数で使用する場合は設定の必要はありません。ワンタッチで特定のチャンネルに切り換えて使用する場合は、8ページの「セカンドチャンネル設定について」をご覧ください。

＜生産完了 2006年02月08日＞
AWM-810 (7／11)

セカンド（副）チャンネル設定について

●本マイクは設定したグループ／チャンネルの他に、セカンド（副）チャンネルをワンタッチ切り換え（電源スイッチ操作）で使用することができます。副チャンネルを使用される場合は、次の要領で設定をおこなってください。

〔UP 設定の場合〕



お願い
設定するときは、必ず電源スイッチを「切」にしてください。

設定位置(GR)	設定位置(CH)	グループ/チャンネルを「B12」に設定した時の例
T	UP	「B12」で送信、電源スイッチを切にしてから0.5秒以内に入にすると「B13」で送信 (注1)
T	1CH	初期設定「B12」のみで送信
T	DN	「B12」で送信、電源スイッチを切にしてから0.5秒以内に入にすると「B11」で送信 (注2)

※電源スイッチを 0.5 秒以上切にすると元の送信周波数「B12」にもどります。

■ 設定のしかた

① 本マイクの電源スイッチを「切」にして、電池ケースのふたをはずす。(7ページの周波数の設定参照)
② チャンネル設定スイッチをドライバー(付属)で「UP」または「DN」の設定位置に合わせる。(上図、上表参照)
（初期設定は「1CH」です。本マイクを１つの送信周波数で使用するときの設定です。）
③ グループ設定スイッチをドライバー(付属)で「T」位置に合わせる。
④ 本マイクの電源スイッチを0.5秒以上「入」にした後、再び「切」にします。
⑤ グループ／チャンネル設定スイッチを元の位置に設定します。
⑥ 電池ケースのふたを閉める。

ご注意‥‥グループ・チャンネル設定スイッチは必ず元の位置（1～7）に戻すか、正しく設定してください。
ただし、グループ６に設定しますと、副チャンネル切換時に送信できませんのでご注意ください。

(注１) UP の場合
同じグループ内の次のチャンネルです。最後尾の場合は先頭のチャンネルです。
例)
「B11」設定時は「B12」
「B12」設定時は「B13」
「B13」設定時は「B14」
「B14」設定時は「B15」
「B15」設定時は「B16」
「B16」設定時は「B11」
周波数一覧表(P.6)参照

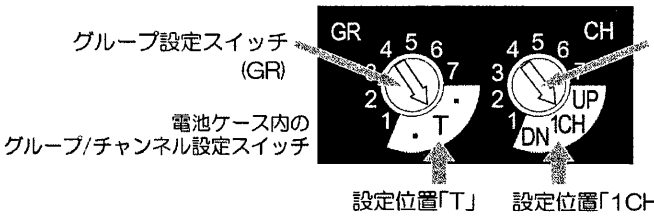
(注２) DN の場合
同じグループ内の前のチャンネルです。先頭の場合は最後尾のチャンネルです。
例)
「B11」設定時は「B16」
「B12」設定時は「B11」
「B13」設定時は「B12」
「B14」設定時は「B13」
「B15」設定時は「B14」
「B16」設定時は「B15」
周波数一覧表(P.6)参照

■ 使いかた

・「UP」に設定した場合は、電源スイッチを「入」の状態から「切」にして0.5 秒以内に「入」にしますと設定したチャンネルよりひとつ上のチャンネル 注1（例：B12 設定時はB13）に切り換わります。
・「DN」に設定した場合は、ひとつ下のチャンネル 注2（例：B12 設定時はB11）に切り換わります。
・再びもとの送信周波数に戻す場合は電源スイッチを0.5 秒以上「切」にし、「入」にしてください。

受信不良および音質不良の場合（周波数の初期設定のしかた）

●受信不良および音質不良の場合は、下記の手順で周波数の初期設定を行ない、その後、周波数設定（7ページ参照）してください。



お願い
設定するときは、必ず電源スイッチを「切」にしてください。

■ 周波数の初期設定のしかた

① 本マイクの電源スイッチを「切」にして、電池ケースのふたをはずす。(7 ページの周波数の設定参照)
② グループ設定スイッチをドライバー(付属)で「T」に合わせる。(上図参照)
③ チャンネル設定スイッチをドライバー(付属)で「1CH」に設定します。
④ 本マイクの電源スイッチを 0.5 秒以上「入」にした後、再び「切」にしますと設定完了です。
⑤ グループ／チャンネル設定スイッチを元の位置に設定し、電池ケースのふたを閉める。
⑥ 本マイクの電源スイッチを「入」にし、受信機に適合するかテストをおこなう。
・ 受信機に適合しないときは、販売店などにご相談ください。

ご注意‥‥グループ・チャンネル設定スイッチは必ず元の位置（1～7）に戻すか、正しく設定してください。

＜生産完了 2006年02月08日＞
AWM-810 (8 / 11)

多チャンネル使用について

●多チャンネル（最大15チャンネル）使用するためには、ワイヤレスマイク、ワイヤレスチューナケース、ワイヤレスチューナ、アンテナ、分配器が、各々15チャンネル同時使用対応機種とする必要があります。

15チャンネル同時使用対応機種

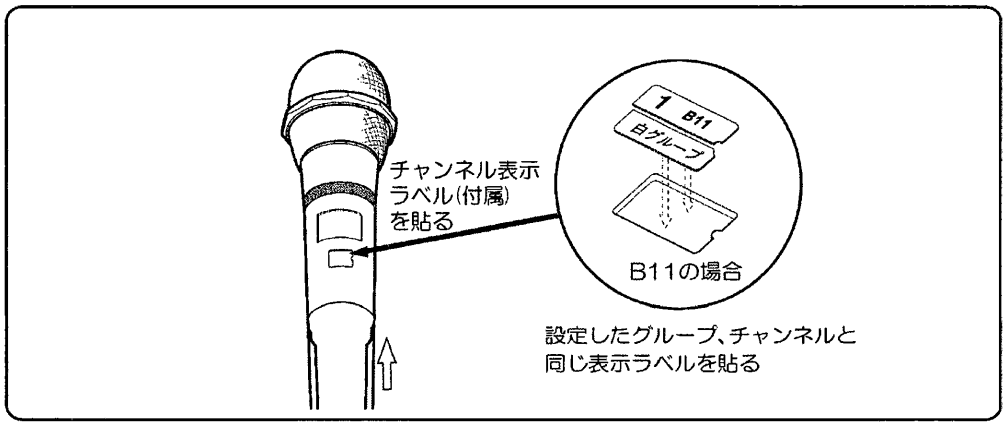
ワイヤレスマイク ……… AWM-810、AWM-820
ワイヤレスチューナケース …… AWT-8222、AWT-8422
ワイヤレスチューナ ……… AWU-841
ワイヤレスアンテナ ……… AWP-82
分配器 ……… DWD-8240（ユニペックス製）

白グループ		
番号	G/CH	周波数(MHz)
1	B11	806.125
2	B12	806.375
3	B31	806.625
4	B32	806.875
5	B13	807.125
6	B33	807.375
7	B51	807.625
8	B24	807.875
9	B52	808.125
10	B53	808.375
11	B35	808.625
12	B26	808.875
13	B44	809.125
14	B45	809.375
15	B55	809.625

青グループ		
番号	G/CH	周波数(MHz)
1	B21	806.250
2	B22	806.500
3	B41	806.750
4	B23	807.000
5	B61	807.250
6	B42	807.500
7	B14	807.750
8	B43	808.000
9	B34	808.250
10	B25	808.500
11	B54	808.750
12	B15	809.000
13	B36	809.250
14	B16	809.500
15	B46	809.750

■ チャンネルの設定

●多チャンネル使用の組み合わせは、グループ1～6の中から選定された周波数で構成された白グループと青グループの2グループです。（上表参照）
●同時に使用するマイクは、同グループ(上表の白または青)・異チャンネルにしてください。ただし、隣接した部屋でほかのグループのマイクは使えません。
●チャンネル表示ラベルを貼るとチャンネルを区別しやすくなります。（下図参照）

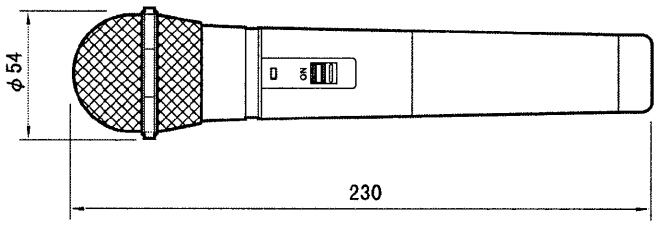


仕様

電波型式	F3E
送信周波数	806.125MHz～809.750MHz（125kHz 間隔、30 波）
発振方式	水晶制御 PLL シンセサイザー方式
変調方式	リアクタンス変調方式
空中線電力	2mW
アンテナ	内蔵アンテナ
変調感度	±5kHz FM（92dB SPL　1kHz にて）
使用マイク	単一指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
周波数特性	100 Hz～10 kHz（1kHz 標準 50μs エンファシス）
最大入力音圧	126dB SPL
入力等価雑音	36dB SPL 以下（A カーブ）
使用電池	単三形乾電池　R6P（SUM－3）　1 個
消費電流	45mA（1.5V にて）
電池持続時間	約 14 時間（常温連続使用にて）
使用温度範囲	0℃～＋40℃
外形寸法	φ54（最大径）　230（長さ）mm
質量	約 180g（乾電池含む）
外観色	ストーンシルバー（マンセル N4.5 近似値）
付属品	単三形乾電池 R6P（SUM－3）……1 チャンネル設定用ドライバ……1 チャンネル表示ラベル……1 マイクホルダ……1 収納ケース……1 取扱説明書……1 東芝家電修理ご相談センター一覧表……1

外形寸法図

単位：mm



＜生産完了 2006年02月08日＞
AWM-810（10／11）

保証とアフターサービスについて

保証について

保証の内容は、下記のとおりとさせていただきます。

保証期間	保証期間は、お買い上げの日から１年間です。
保証内容	取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無償修理をさせていただきます。
保証の免責事項	**保証期間内でも次の場合には原則として有料にさせていただきます。** (1) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷 (2) お買上げ後の取付場所の移設、輸送、落下などによる故障及び損傷 (3) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障及び損傷 (4) 車両、船舶等に搭載された場合に生ずる故障及び損傷 (5) 施工上の不備に起因する故障や不具合 (6) 法令、取扱説明書で要求される保守点検を行わないことによる故障及び損傷 (7) 日本国内以外での使用による故障及び損傷

修理を依頼されるとき

1．保証期間中は

万一故障がおきた場合は、お買上げ日を特定できるものを添えてお買上げの販売店（工事店）までお申し出ください。

2．保証期間を過ぎているときは

お買上げの販売店（工事店）にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理をさせていただきます。

アフターサービスについてご不明な点は

修理に関する相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店（工事店）または東芝家電修理ご相談センターにお問い合わせください。

東芝ライテック株式会社 電材照明社 〒140-8660 東京都品川区南品川2丁目2番13号（南品川JNビル）TEL (03) 5463-8779

お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。 (12196)A

＜生産完了 2006年02月08日＞
AWM-810 (11／11)